

全国に挑む

Top Athlete of Hachimantai

女子バレー県選抜に選出 中学校最後の栄冠目指す

小澤みなみ さん おざわ・みなみ 西根中学校3年 下町一区

最

終選考会で名前を呼ばれるとは思わなかった。選ばれたときは、嬉しさと同時に不安もあったけど、今は全国の舞台に立つのが楽しみです。

12月25日から大阪府を会場に開幕する「JOCジュニアオリンピックカップ第24回全国都道府県対抗中学バレーボール大会」。この大会は将来のオリンピック選手の登竜門といわれている。そんな大会に出場する岩手県選抜12人に西根中学校、そして八幡平市から唯一選出された。

小澤さんがバレーボールに出会ったのは、小学校3年生のとき。近所の先輩のプレーする姿にあこがれて大更バレーボールスポーツ少年団に入り、全力でボールを追いかけた。最後のスポ少県大会で負けたとき悔しさと同時に「もっとうまくなりたい」という気持ちが中学校でも続けるきっかけとなった。

そんな小澤さんに転機が訪れたのは、中学校2年生の春。新しい指導者の三田永旬さんとの出会いだ。厳しい練習の中で技術はもちろん、精神力も鍛えられた。「コート上でのプレーの乱れは生活の乱れ」普段の生活を大切にすることを学んだ。努力を重ねた結果は、去年の県中学校新人大会で3位、ことし7月の県中学校総合体育大会でも3位に入り、学校初の東北大会出場へと実を結んだ。小澤さん自身も県大会優秀選手に選ばれた。

ポジションがセンターの彼女の持ち味はブロック。163センチの身長は、同大会が170センチ以上の選手を2人常時出場させるという規定がある中、センタープレーヤーとして決して恵まれているとはいえない。しかし、持ち前のスピードとジャンプ力で身長の高い選手にはひけをとらない。同選抜チーム監督の小川悟史先生(北上市立飯豊中)は「普段は控えめな性格だが、逆境に強く、苦しい試合の中での強気なプレーで局面を打開できる選手」と期待を寄せる。

現在は、平日は引退した部活動で自主練習、土日は選抜チームの練習や県外遠征に励む。バレーボールは個人の力や考え方、行動では勝てない「チームワーク」が大切なスポーツ。チームで支えあいながら1つの目標に向かい、厳しい練習に耐えている。小澤さんはバレーボールの醍醐味を「みんなでつないで1点を勝ち取ったときの達成感」と語る。

「出るからには全国制覇を狙いますが、全国大会は厳しい試合ばかり。1つ1つの試合に集中し、練習の成果を全国大会のコートで発揮するのが目標」と小澤さん。「自分にはバレーボールしかない。高校では、インターハイや国体、春高バレーに出場したい」と将来を見据えている。西根中、八幡平市、岩手県の代表として、全国の舞台に立つ15歳のセンタープレーヤーの夢がここから始まる。

profile

小3からバレーボールを始める。ポジションはセンター。西根中学校女子バレー部主将を務め、チームは学校初の東北大会に出場した。好きな選手はバレーボール女子日本代表の江幡幸子選手(日立)。尊敬する人は両親。身長163センチ。血液型A型のかに座。15歳。